

痴呆性老人キャンプの実際とその課題 — 淡路島シニアキャンプのボランティア研修を通して —

Practice of Senior Camp

池田 由紀 小林 文子 八田 勘司

【要約】 近年わが国において、痴呆性老人は増加傾向にある。痴呆性老人に生き生き暮らしてほしいという願いから、キャンプが実施されるようになった。

今回、痴呆性老人を対象とした淡路島シニアキャンプのボランティア研修に参加し、痴呆性老人の残存機能を引き出す方法として、看護的視点から課題を検討した。その結果、回想療法、音楽療法、環境療法などを取り入れることの必要性が示唆された。

【キーワード】 痴呆性老人、キャンプ、ボランティア、QOL、看護の役割

I はじめに

近年わが国は、高齢者人口の増加に伴って、痴呆性老人が増加傾向にある。痴呆対策には家族のみならず、保健医療従事者、福祉関係者の確保・充実および保健福祉サービスのネットワークづくりが必要といわれている¹⁾。わが国では痴呆性老人に生き生き暮らしてほしいという願いから、キャンプが実施されるようになってきた。しかし、それだけに、参加者の特性に応じたプログラムの開発という新たな問題も指摘されている²⁾。痴呆性老人のコミュニケーションの一つとして回想療法が有効である³⁾ことを著者らはすでに紹介している。

わが国における最初の痴呆性老人キャンプは、1993年9月兵庫県大屋町において、大阪の高齢者レクリエーション研究会の主催で行われた。その取り組みについては、金山により報告されている²⁾。

今回、淡路島シニアキャンプのボランティア研修に参加する機会を得たのでその内容を紹介し、看護職の果たせる役割の可能性を探りたい。

II キャンプの事前準備

青少年に対する組織キャンプにおいて、キャンプの実施にあたっては最善の準備がなされる。この痴呆性老人に対するキャンプも同様であった。さまざまな角度から綿密に検討されているが、常に安全の確保を第一とされてきた。

1 目的

キャンプにはいろいろな立場の人が関わる。施設での介護にあたる職員、医師、看護婦、学生、福祉事務所の職員、キャンプの専門家、運転手などさまざまである。キャンプの運営をするためには、まず何のために、何をめざしてという目標や目的を共通にすることが大切である⁴⁾。

今回のキャンプの目的は、「痴呆の症状をもったお年寄りが、日常から離れたところで生活し、いつもと違った体験を楽しむ」ことであった。

2 場所

キャンプは、南淡路国民休暇村で実施された。場所の選定にあたっては、重度の障害者や高齢者を対象にする場合、最低次の4つが満たすべき条件とされている。

- 居住地域から近いこと
- 経費が安いこと
- 緊急の避難場所が確保されていること
- 管理責任者の姿勢が柔軟で、さまざまな工夫に協力的なこと

その他として、医療機関との関係や給食施設があること、サイトがフラットであることなどである。

以上のことから南淡路国民休暇村はキャンプに適していると選定された。キャンプ場は内海に隣接し、船着き場まですぐに行けた。痴呆性老人が利用している主催者の特別養護老人ホームは、キャンプ場まで1時間以内の距離であった。

3 日程

1997年8月22日～8月23日の1泊2日で実施された。本来、障害者や高齢者にとって夏や梅雨時、冬は気候的に大きな支障になる。過ごしやすい5月や10月を中心に考えることがよいが、他の行事やキャンプ場の都合によって日程、時期は変更せざるを得ない。この夏も暑く、健康な成人にとっても厳しい暑さであったが、緊急の避難場所があったこと、屋根付き休憩場所があったことから問題は何もなかった。

4 参加者

痴呆性老人は特別養護老人ホーム入所者10名とデイケア利用者1名であった。施設の職員は20名、一般キャンプ指導者およびボランティア8名、ボランティアの学生・短大生・高校生・中学生など25名、合計64名が今回のキャンプ参加者であった。

痴呆性老人の選定にあたっては、以下のことが配慮されていた。

- キャンプに耐えられる体力のある人（キャンプ実施の3か月前より施設側が何人か選定してデーターをとる。キャンプ実施の1か月前より外出を多くする。）
- キャンプ参加について、家族に了解を得ておく。
- キャンプに続けて参加してもらい経過をみる。今回は3人の老人が昨年もキャンプに参加された人たちだった。痴呆の程度や症状はさまざまである。
- キャンプ場の特徴にともない、参加者選定にその老人の育った環境を考慮する。今回は海の近くであったので、元漁師、漁業関係の職業についていた老人、海の近くで育った老人が参加された。

5 プログラムとスケジュール

プログラムは、キャンプ場の選定、参加者のニーズ

を考慮して決定された（資料1）。基本的には、ゆったりした時間の中で、自分の興味あるものを選んでもらうことであった。そこでの生活を楽しんでもらうことであった。老人ホームでの生活は、スタッフや時間の関係上、決められた時間に決められたことが流れていく。しかしキャンプでは、自分が認められているという場をつくり、自分の生活史の中に染みついている事柄の再現がはかられる。

前回までは、キャンプの専門家である人たちがプログラムやスケジュールなどをコーディネートしていたが、今回は施設側によって全面的に企画運営がなされた。施設側の意図は、常に安全を確保し、見守っていく中で、痴呆性老人が楽しい時間をもてるように準備しておくことであった。

Ⅲ キャンプの実施

1 痴呆性老人受け入れ準備

スタッフは、キャンプの前日より受け入れ準備を行っていた。ボランティアたちも前日より参加し、オリエンテーションと講習を受けていた。その主な内容は、痴呆とは何か、痴呆の症状と行動への対応についてなどである。参加者全員が共通の目的意識をもって、それぞれの役割が果たせるよう、役割者間でのミーティングが組み込まれていた。

2 歓迎のセレモニー

痴呆性の老人たちは、2台の送迎バスに乗りキャンプ場に到着した。老人たちは、介護の職員に手をとられてバスを降り、すぐに直接介護の役割をもつボランティアの学生に紹介された。全員がそろったところで、歓迎のセレモニーが開始された。

自己紹介、挨拶、歌、指ゲームなどによって、参加者の気持ちが次第に一つになっていく雰囲気を感じられた。

3 食事

食事は、キャンプにとって欠かせない楽しみの一つである。献立から材料の購入と保管、調理器具、食事場所についても、細かな点まで考慮されていた。

まず、第1日目の昼食はビビンバ丼と牛肉丼の自由選択式であった。決まりきった定食よりも、食べるものを選択できることは食事の楽しみを増す。このことは、終始配慮されていた。その日の夕食は、痴呆性老

人が釣った魚も加えいろいろな食材のバーベキューと豆腐のお好み焼、さらに痴呆性老人も一緒に作った手打ちうどんであった。

第2日目の朝食はカートンドッグという牛乳パックを利用したホットドッグで、老人は作る場所から参加していた。昼食は、ペットボトルを利用した手作りの流しそうめんと鰻丼であった。

食事の準備からあとかたづけまで、その老人の生活歴を配慮することで、老人の自主性が発揮されていた。食器洗いを手伝おうとする人、うどん粉こねやうどん切りをする人、魚を釣ってさらに三枚におろす人など自主的に楽しみながら参加していた。

真夏であることや、抵抗力のない老人であるということからも、食中毒対策は十分考えられていた。また、水分補給についても、時間的によく冷えたお茶を配ったり飲みたいときに飲めるように準備されていた。

4 排泄

誘導すればトイレに行ける老人がほとんどであったが、90歳の男性は車椅子移動であった。そのため、シートで覆った簡易トイレが緊急非難場所の近くに、



写真1 歓迎のセレモニー

またテントサイトにも設置された。今回参加した老人では、おむつをしていない老人は2人だけであったが、直接介護の学生が時間的にトイレ誘導を行っていた。夜間についても同様であったが、おむつ交換は施設の職員が交代で行っていた。

5 睡眠

直接介護の学生とのペアで、テントで宿泊した。テントサイトに明りが少なく、またテントの入り口が狭くて屈まなければ入れないため、初め老人は一瞬驚いたようであった。しかし施設職員が先にテントの中に入り大丈夫であることを示すとすんなりテントに入ってしまったことには、私たちのほうが驚いてしまった。寝具は、普段老人ホームで使用している毛布や愛用の枕が使われていた。

夜間は、交代制で見回りが行われ、先に述べたおむ



写真3 うどん作りに熱中する老人

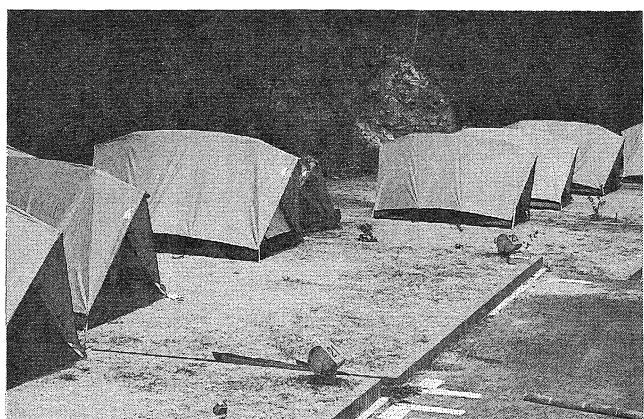


写真2 テントサイト



写真4 老人を中心に会話がはずむ

つ交換が行われていた。

6 活動

プログラムは、食事の時間を除いて、何をしてもよい時間が多く設けられていた。画一的なプログラムでなく一人一人が好きなことを楽しめるように工夫されていた。例えば、釣をするグループ、輪なげに興ずるグループ、うどん作りに熱中するグループ、談笑しながらちぎり絵をするグループ、お昼寝グループ、懐かしい歌を歌っているグループ、老人を中心として会話ははずんでいるグループなどが自然にできていった。どこにも無理がなく、なおかつ参加者全員が楽しんでいたのである。個人の気持ちを大切に、ゆっくりと時間が流れていった。

7 音楽

今回のキャンプで忘れてならないのは音楽であった。歓迎のセレモニーから見送りのセレモニーで終わるまで、終始音楽があった。だれでも一度は聞いたり口ずさんだことのある音楽がいつも流れていた。アコーディ



写真5 ウクレレを弾く老人



写真6 老人に話しかけるボランティア学生

オン、ウクレレ、小型のギター、手作りのマラカスなどに誰でもさわれ自由に弾けた。音のある世界は、気持ちを明るくさせてくれ、いろいろな思いを一つにしてくれる。時にはバックグラウンドミュージックになったりする。リズムに合わせて手拍子をとる人もいれば、からだを揺すって表現する人もいる。そんな音楽の存在が、キャンプをさらに楽しいものにしたようだ。

8 ボランティア

大学、短大、高校、中学などそれぞれ年齢も背景も性別も違うボランティアたちのキャンプを通しての変化は大きなものであった。この痴呆性老人キャンプが、障害を持った高齢者に対してばかりでなく、参加した者にも大きな影響を及ぼすことがわかった。

学生ボランティアたちは、初めて痴呆性老人に接する人が多かった。初対面時には緊張感が強く、老人に何か話しかけなければといった様子が見受けられた。しかし、時間が流れ、食事や排泄や自由時間を共にし、夜間は一緒に休むことで、老人に何かしなければといった緊張感はまったく見られなくなった。一昼夜を共にしたことは、ボランティアの学生をまるでずいぶん前からの知り合いのような信頼感と自然さをもって老人に寄り添わせた。お別れするとき、ある学生は泣き出してしまった。老人に寄り添えた達成感と別れの寂しさが交錯したようだった。初めの顔と比べれば、まさしく成長した顔に変わっていた。

IV 痴呆性老人キャンプにおける看護の課題

以上に紹介した痴呆性老人キャンプの内容から、看護の課題を上げると次のようなものが考えられる。

老人は様々な体験をしてきている。挫折や死と生にまつわる思い出も多い。そんななかで人生の喜び、生きがい燃えてきたはずである。そのような貴重な体験を痴呆性老人が語れる場としてキャンプが可能である。看護の治療的関わりに回想療法、音楽療法、環境療法などがある。これらを取り入れることによって、老人のQOLを充実させることができる³⁾。

V おわりに

痴呆性老人のキャンプに初めて参加して、私たちはその明るい雰囲気にも驚いた。痴呆性老人が日常生

活とは異なった状況の中で、どのようにキャンプをするのだろうかと思議であった。ところが、特別なことではなかった。みんながゆったりとしていた。みんなが、みんなを受け入れていた。初めてこのキャンプにおっかなびっくりで参加した私たちまでも、包み込むように受け入れられた。立場も年齢も性別も意識しないで楽しむことができた。お互いを信頼する暖かい心を感じ、人が共に生活をするという原点が見えた。

謝辞

この機会を与えて下さいました石田易司氏ならびに関係者の方々に深謝いたします。

〔文 献〕

- 1) 厚生統計協会：厚生の指標，臨時増刊，国民衛生の動向，44(9)，133～134，1997.
- 2) 金山竜也：痴呆性老人と行うシニアキャンプ，第1回日本キャンプ会議抄録集，70～73，1997.
- 3) 八田勘司：痴呆状態の患者とのコミュニケーション，精神科看護，63，25～31，1997.
- 4) 石田易司：痴呆性老人とキャンプ，171～172，朱鷺書房，大阪，1997.

資料1 キャンプ日程表

時間	プログラム	介護スタッフ	食事スタッフ	グランドスタッフ	備考
11:00 30	キャンプ場備品搬入 ボランティア迎え			キャンプ場備品搬入 環境整備	ボランティア迎え(職員) すいせんホール集合
12:00 30					
13:00 30					
14:00 30	ボランティア着				
ボランティア・オリエンテーション 14:00 職員 15:20 ボランティア 各ボランティア・講習会員 参加できる職員					
16:00 30	夕食(ボランティア・講習会員)				説明担当 *プログラム・・・T.K *個人担当・・・M.T *環境・設備・・・M.Y *役割・・・N.M *レク・・・A.B *食事・・・M.D
17:00 30					キャンプ参加利用者と直接介護 のボランティアと一緒に食事をとる
18:00 30	キャンプ場出発 着			キャンプ場出発 着	テント設営 設備説明 役割確認 備品チェック
19:00 30	入浴(休憩付)			入浴(休憩付)	
20:00 30	ミーティング			ミーティング	
21:00 30	就寝			就寝	
22:00					

時間	プログラム	介護スタッフ	食事スタッフ	グランドスタッフ	備考
6:00 30	起床	起床	起床 朝食準備	起床	キャンプ場 前泊者
7:00 30	朝食	朝食	朝食 片付け	朝食	
8:00 30		スタッフミーティング			
9:00 30					
10:00 30	すいせん出発	受け入れ準備	昼食準備	環境準備	
11:00 30	キャンプ場着	セレモニー 記念撮影			
12:00 30	昼食	昼食	昼食 片付け	昼食	講習会員手伝い(昼食)
13:00 30	休憩 レクリエーション	レクリエーション おやつ作り 自由参加 おやつ	おやつ作り	レクリエーション	なにをしてもよい
14:00 30	おやつ 夕食づくり		夕食準備		
15:00 30	自由参加				
16:00 30	夕食	夕食	夕食	夕食	講習会員手伝い(夕食)
17:00 30	休憩		片付け		
18:00 30	レクリエーション	クリエーション		レクリエーション	
19:00 30	水分補給 就寝準備	スタッフミーティング(集まれる人のみ)			
20:00 30	就寝	担当参加者ととも就寝 就寝	就寝	就寝 夜間巡回	入浴はありません 夜間巡回 *10:00~12:00 M.O *12:00~2:00 T.K *2:00~4:00 M.Y *4:00~6:00 A.B
21:00 30					
22:00					

時間	プログラム	介護スタッフ	食事スタッフ	グランドスタッフ	備考
6:00 30					
7:00 30	起床	起床 洗面・排泄介助・起床チェック	起床 朝食準備	起床	
8:00 30	朝食	朝食 休憩	朝食 片付け	朝食 レクリエーション準備 レクリエーション	テント片付け 手すき職員
9:00 30	レクリエーション				
10:00 30	水分補給	お茶	昼食準備		
11:00 30	セレモニー				
12:00 30	アンケート活動記録・配布記入				
13:00 30	朝食 休憩	昼食	昼食 片付け	昼食	講習会員手伝い(昼食) 備品片付け・積み込み
14:00 30	帰所準備	排泄介助			
15:00 30	帰所出発	見送り	見送り 後片付け	見送り 後片付け 最終チェック	ボランティア送り(職員)
16:00					